

学校法人：愛知産業大学

学 校：三河歯科衛生専門学校

課 程：医療専門課程

学 科：歯科衛生士科

学 習 大 要

(令和4年度)

2 年 次

- ・ 学科目標
- ・ 教科目(科目担当者)一覧
- ・ 科目別授業計画表

学校法人：愛知産業大学
学 校：三河歯科衛生専門学校
課 程：医療専門課程
学 科：歯科衛生士科

学科目標

■学習目標

教育基本法に則り、学校教育法及び歯科衛生士法に基づき歯科衛生士に必要な専門教育を施すとともに、豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

1 年次に学ぶこと

生体の正常像と病気、病気の予防・治療について学び、とくに歯・口腔について詳しく学ぶ。歯科予防処置、歯科診療補助などの実習により、歯科衛生士として必要な技術を身につける。また、社会人としての心構えを養い、マナーを身につける。

2 年次に学ぶこと

前期には、臨床系の科目を学ぶとともに、介護実習、食育実習などを行う。後期から臨床実習が始まり、それまでに学んだ知識・技術を深めるとともに、社会人・医療人としての心・態度を学ぶ。

3 年次に学ぶこと

前期まで臨床実習を行い、知識・技術とともに医療現場におけるチームワークなどを学ぶ。後期から教養科目、卒業研究、総合学習などを行って、知識の整理・まとめを行う。また、歯科衛生士国家試験、全員合格を目指して、集中学習を行う。

■取得目標資格

1. 歯科衛生士（厚生労働省）
2. NPO日本食育インストラクター（NPO日本食育インストラクター協会）

教育課程表

医療専門課程

(昼間部) 歯科衛生士科			
	教育内容	授業科目	単位数 (時間数)
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	2 (30)
		化学	2 (30)
	人間と生活	心理学	2 (30)
		社会学	2 (30)
		英語Ⅰ	1 (30)
		英語Ⅱ	1 (30)
		体育	1 (45)
	小計		11 (225)
専門基礎分野	人体 (歯・口腔を除く。) の構造と機能	解剖学	2 (30)
		組織・発生学	1 (15)
		生理学	2 (30)
	歯・口腔の機能と構造	歯牙解剖学	2 (30)
		摂食・嚥下	1 (15)
		基礎実習	1 (45)
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2 (30)
		微生物学	2 (30)
		薬理学	2 (30)
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	2 (30)
		口腔衛生学・歯科衛生統計	4 (60)
		社会福祉	2 (30)
	小計		23 (375)
専門分野	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	2 (30)
		歯科臨床概論	2 (30)
		保存修復学	1 (15)
		歯内療法学	1 (15)
		歯周療法学	2 (30)
		歯科補綴学	2 (30)
		矯正歯科学	2 (30)
		口腔外科学	2 (30)
	歯科予防処置論	歯科予防処置Ⅰ	3 (135)
		歯科予防処置Ⅱ	2 (90)
		小児歯科	2 (30)
		障害者歯科	1 (15)
		高齢者歯科	1 (15)
		口腔ケア	1 (15)
	歯科保健指導論	歯科保健指導Ⅰ	1 (45)
		歯科保健指導Ⅱ	1 (45)
		歯科保健指導Ⅲ	1 (45)
		生化学	2 (30)
		栄養指導	2 (30)
		食育実習	2 (90)
	歯科診療補助論	歯科診療補助Ⅰ	3 (135)
		歯科診療補助Ⅱ	1 (45)
		歯科材料	2 (30)
		看護法大意	1 (15)
		放射線	1 (15)
		医療保険	1 (15)
		臨地実習 (臨床実習を含む。)	20 (900)
		総合学習	3 (90)
	小計		65 (2040)
選択必修分野		医学概論	1 (15)
		マナー実務	1 (30)
		ビジネスマナー	1 (30)
		コンピュータ演習	1 (30)
		人間関係論	1 (30)
		教養科目	3 (45)
		卒業研究	1 (30)
	小計		9 (210)
	合計		108 (2850)

(単位換算の基準) 講義 1 5 時間をもって 1 単位とする。
 演習 3 0 時間をもって 1 単位とする。
 実技・実習 4 5 時間をもって 1 単位とする。

■教科目（科目担当者）一覧

科 目	学年	担 当 者	専任 非常勤
英語Ⅱ	2年	嶋本ローラ	非常勤
体育	2年	玉田 鷹士	非常勤
薬理学	2年	近藤 玲子	非常勤
社会福祉	2年	河合 千丈	非常勤
歯科臨床概論	2年	齋藤 輝海、寺沢 史誉、 伊藤 洋平、佐々木 惇、 長谷川 令賀	非常勤
口腔外科学	2年	兼子 隆次、中岡 俊貴 町田 純一郎、篠原 淳	非常勤
歯科予防処置Ⅱ	2年	藤井 広美	専任
小児歯科	2年	榊原 章一、平山 美衣	非常勤
障害者歯科	2年	岡 義郎、今泉 三枝 図師 良枝	非常勤
歯科保健指導Ⅱ	2年	前田 順子、藤井 広美	専任
食育実習	2年	平井 恵子、中井 敦子	非常勤
歯科診療補助Ⅱ（介護実習）	2年	大崎 千秋	非常勤
歯科診療補助Ⅱ （ホワイトニング）	2年	杉山 明聡	非常勤
看護法大意	2年	平下 祐梨子、竹下 裕子	非常勤
放射線	2年	清水 大行、新美 卓也 岸本 大、松本 祐樹	非常勤
医療保険	2年	柴田 芳紀、竹内 朗人 服部 彰	非常勤
ビジネスマナー	2年	富士 友美	非常勤
臨地実習	2年	臨床実習指導教員	非常勤

実務経験のある教員等による授業科目 令和4年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
基礎分野	1	心理学	2	森月 義雄	医療法人や短大等で臨床心理カウンセラーの経験（現役）を活かし、心理学の基礎知識、自己理解や他者理解を深めコミュニケーション能力の向上を目指し、脳科学の知識についても講義する。
基礎分野	1	英語 I	1	嶋本 ローラ	大手企業の英文チェックや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成で、音楽を聴いたり英語でゲームなどを行い英語に慣れ親しむことを中心に教育する。
専門基礎分野	1	歯牙解剖学	2	酒井 英一	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、口腔を中心とする解剖学的名称や基礎知識を講義する。
専門基礎分野	1	病理学	2	前田 初彦	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病気や疾患の基本について学び、その診断方法や治療法あるいは予防法を講義する。
専門基礎分野	1	微生物学	2	堀江 真弓	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病原性微生物の性質や疾病についてや医療現場による感染予防について講義する。
専門分野	1	歯科衛生士概論	2	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、歯科衛生士の業務、歴史、法律、倫理、組織や役割について講義する。
専門分野	1	保存修復学	1	村田 公成	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、むし歯等による硬組織の欠損部の進行を阻止し、修復方法を講義する。
専門分野	1	歯内療法学	1	天野 一晴	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯髄疾患や根尖歯周病治療についてや臨床実習において治療の土台となる歯内療法を講義する。
専門分野	1	歯周療法学	2	丸山 健	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、臨床経験を基に歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。
専門分野	1	歯科補綴学	2	有馬 達也	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯科衛生士日関連している歯科補綴学を臨床に即した面から、補綴治療の基本的な知識について講義する。
専門分野	1	矯正歯科学	2	志村 法子	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、矯正歯科治療の概要、正常咬合と不正咬合など、臨床で歯科衛生士業務に必要な技術を講義する。
専門分野	1	歯科予防処置 I	3	遠山 麻希子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、予防処置の基礎から専門的な知識・技術までの指導を行う。
専門分野	1	歯科保健指導 I	1	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、健康や歯科医療に対する関心を持って歯科保健指導が行えるよう、基礎的な知識・技術を指導する。
専門分野	1	栄養指導	2	平井 恵子	管理栄養士の資格を有し、栄養管理士会主催等の講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、栄養指導の重要性、食事の重要性を講義する。
専門分野	1	歯科診療補助 I	3	川上 理永	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、患者に対する業務と歯科診療の介添えについての指導する。

実務経験のある教員等による授業科目 令和4年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
専門分野	1	歯科材料	2	永井 伸幸	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、組成と口腔内環境における物質的性質や生物学的性質ならびにこれらの性質に影響を及ぼす取り扱い方を講義する。
基礎分野	2	英語Ⅱ	1	嶋本 ローラ	大手企業の英文チェッカーや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成。英語Ⅰで習った会話中心のスキルを活かし、コミュニケーションのための英語を中心に教育する。
基礎分野	2	体育	1	玉田 鷹士	大手スポーツジムにてグループエクササイズを担当の経験を活かし、ボールやナノチューブを使用した体力づくりを中心としたに実技指導を行う。体を動かすことでリフレッシュし、健康に不可欠ということを体感させる。
専門基礎分野	2	薬理学	2	近藤 玲子	薬剤師の資格を有し薬局に勤務（現役）、その経験を活かし、薬物の知識・作用・副作用について講義する。
専門分野	2	歯科臨床概論	2	齋藤 輝海	病院口腔外科の臨床現場での歯科医師（現役）経験を活かし、口腔機能の重要性や歯科臨床の一連の流れについて講義する。
専門分野	2	歯科予防処置Ⅱ	2	藤井 広美	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、相互実習を通じ予防処置の専門的な技術を指導する。
専門分野	2	小児歯科	2	榊原 章一	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、成長過程である小児期の口腔領域について学び、問題点や予防・処置方法を講義する。
専門分野	2	障害者歯科	1	岡 義郎	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、障害の概念、歯科医療に必要な介助法ならびに歯科保健指導を講義する。
専門分野	2	歯科保健指導Ⅱ	1	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、基礎的知識・技術を指導し、臨床および地域歯科保健活動において、専門的立場より支援できる能力が習得できるよう指導する。
専門分野	2	食育実習	2	平井 恵子	管理栄養士の資格を有し、栄養管理士会主催等の講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、食についての重要性や保健指導力を教える。
専門分野	2	看護法大意	1	竹下 裕子	看護師免許と歯科衛生士免許を有する。それぞれの臨床実習経験があり、その経験を活かし看護の概念・技術・実務につて講義する。
専門分野	2	放射線	1	清水 大行	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、放射線治療と口腔管理、歯科衛生士の役割について講義する。
専門分野	2	医療保険	1	柴田 芳紀	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）や歯科医師会社会保険部の職を歴任。その経験を活かし、健康保険診療上の必要事項を講義する。
専門基礎分野	3	摂食・嚥下	1	安藤 睦美	大学病院の臨床現場での歯科衛生士（現役）の経験を活かし、歯科衛生士が摂食・嚥下障害のリハビリテーションを実践できるようにする為の知識・技術を講義する。
専門分野	3	高齢者歯科	1	高濱 豊	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、加齢による身体的・精神的変化と疾患、高齢者の特徴・接し方・医療と介護・歯科衛生過程について講義する。

実務経験のある教員等による授業科目 令和4年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
専門分野	3	歯科保健指導Ⅲ	1	小池 美佳	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、ライフステージと の口腔保健管理論を講義し、実習を通じて実践力を指導する。
実務経験のある教員等による授業科目合計単位数			49		

目 次

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1. 英語Ⅱ | 20. 歯科診療補助Ⅱ
(介護実習) |
| 2～3. 体育 | 21. 歯科診療補助Ⅱ
(ホワイトニング) |
| 4. 薬理学 | 22. 医療保険 |
| 5. 社会福祉 | 23. ビジネスマナー |
| 6. 歯科臨床概論 | |
| 7. 口腔外科学 | |
| 8～10. 歯科予防処置Ⅱ | |
| 11. 小児歯科 | |
| 12. 障害者歯科 | |
| 13～14. 歯科保健指導Ⅱ | |
| 15～17. 食育実習 | |
| 18. 放射線 | |
| 19. 看護法大意 | |

■科目別授業計画表

科 目 名	英語Ⅱ	授業形態	演習
担 当 講 師 名	嶋本ローラ		
科 目 内 容	英語Ⅰで取得出来た英会話スキルを発展して、コミュニケーションのための英語スキルを身につける。		
到 達 目 標	クリニックをおとずれる外国人などと会話ができるようになること。		
授 業 時 間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材	Smart Choice Student Book 1B(Oxford)		
参 考 図 書	英和辞典の持参を強くお勧めします。		
授 業 内 容			
1 回目：お買い物 Unit 7			
2 回目：形容詞 Unit 8			
3 回目：旅行英語 Unit 9			
4 回目：旅行英語 Unit 9 つづき と 補助教材（プリント）			
5 回目：補助教材（プリント）			
6 回目：道案内 Unit10			
7 回目：テキスト P. 112～113 プリント			
8 回目：語彙をふやすゲーム			
9 回目： Good times 休暇の話／ペアワーク テキストUnit11			
1 0 回目：問診表のやさしい英語（プリント）			
1 1 回目：音楽でリスニング クイズ			
1 2 回目：未来の話 テキストUnit12			
1 3 回目： 一日日記（テキスト P. 136 参照）			
1 4 回目：復習と口頭テスト（interviews）			
1 5 回目：復習と口頭テスト（interviews）			
評価方法基準	6 0 %筆記試験、4 0 %口頭テスト		

■科目別授業計画表

科 目 名	体育	授業形態	実技
担 当 講 師 名	玉田 鷹士		
科 目 内 容	全身をくまなく動かして、体力づくり・身体・心のリフレッシュを目的に運動を実施。		
到 達 目 標	基礎体力づくり、肩こり・腰痛予防エクササイズの理解。		
授 業 時 間	総時間数 46 時間 [90分授業を、週 1 回で 23 週実施 総授業回数 23]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材			
使 用 機 器	CDデッキ、スモールボール、チューブ		
授 業 内 容			
1 回目：体力、健康チェック（ガイダンス）			
2 回目：体力測定 ①			
3 回目：体力測定 ②			
4 回目：ウォーキング、軽運動			
5 回目：〃			
6 回目：〃			
7 回目：ジョギング、レクリエーション			
8 回目：〃			
9 回目：〃			
10 回目：〃			
11 回目：〃			
12 回目：〃			
13 回目：〃			
14 回目：〃			
15 回目：〃			
評価方法基準	出席（25％）、実習態度（取り組む姿勢）（25％）、体力維持・向上度合い（50％）で評価		

■科目別授業計画表

授 業 内 容

16回目：コーディネーショントレーニング

17回目：ウォーキング、肩こり改善・予防エクササイズ

18回目：〃

19回目：ウォーキング、腰痛緩和・予防エクササイズ

20回目：〃

21回目：体力測定 ①

22回目：体力測定 ②

23回目：レクリエーション

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

■科目別授業計画表

科 目 名	薬理学	授業形態	講義
担 当 講 師 名	近藤 玲子		
科 目 内 容	薬の生体に対する作用について、どこに（作用部位）、どの様に（作用機序）、どの様な効果（薬理作用）を現わすか、また、使用方法（適用経路、連用・併用）による効果の現われ方や副作用について学ぶ。薬理学の知識は日常生活においても役に立ち、国家試験も決して難問ではない。楽しく学びましょう。		
到 達 目 標	現場で対応できる薬理学の基礎知識を習得する。		
授 業 時 間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学（最新歯科衛生士教本）		
授 業 内 容			
1 回目： I 編総論 1章 薬物の作用			
2 回目： 2章 薬物動態 3章 薬物の適用方法の種類と特徴			
3 回目： 4～6章 薬物の副作用、適用する際の注意			
4 回目： 7～8章 薬物の取り扱い、法律			
5 回目： II 編各論 1章 ビタミンとホルモン			
6 回目： 2章 末梢神経系に作用する薬物			
7 回目： 3章 中枢神経系に作用する薬物			
8 回目： 4～8章 循環器系、腎臓・呼吸器系、消化器系、血液に作用する薬物			
9 回目： 9章 免疫と薬 10章 悪性腫瘍と薬			
10 回目： 11章 代謝性疾患治療薬 12章 炎症と薬			
11 回目： 13章 痛みと薬 14章 局所麻酔薬			
12 回目： 15章 抗感染症薬 16章 消毒薬			
13 回目： 17～20章 歯科疾患の薬			
14 回目： 21章 漢方医学と薬物 過去問			
15 回目： 総復習 テスト範囲			
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科 目 名	社会福祉	授業形態	講義
担 当 講 師 名	河合 千丈		
科 目 内 容	①社会福祉に関する理論、制度、政策などの基本的な事柄を理解する。 ②児童、高齢者、障害者福祉の現状と課題を知り、今後の社会福祉の在り方について考察する。		
到 達 目 標	日本の社会福祉制度や社会福祉用語を関連づけたり類別したりして説明できる。		
授 業 時 間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	新 社会福祉とは何か（中央法規）、授業で提示する資料等		
授 業 内 容	1 回目：社会福祉の概念 ①社会福祉とは何か ②基本は憲法第25条 ③今必要な社会福祉 2 回目：日本の社会保障制度 ①年金保険 ②医療保険 ③雇用保険 ④労災保険 ⑤介護保険 3 回目：社会福祉の歴史 ①古代の慈善事業 ②経済成長と社会保障 ③日本型福祉社会への転換 4 回目：社会福祉の法と行政・財政 ①社会福祉六法 ②社会福祉の行政機関 ③財政 5 回目：社会福祉法に規定される基本的事項 ①社会福祉事業 ②社会福祉法人 他 6 回目：社会福祉に携わる専門職 ①国家資格 ②任用資格 ③名称独占、業務独占 7 回目：生活保護Ⅰ ①日本の生活保護制度 ②生活保護の種類 8 回目：生活保護Ⅱ ①生活保護申請の順序 ②生活保護の動向と課題 9 回目：児童福祉Ⅰ ①子供の権利条約 ②少子化進行とその対応 ③新しい法規 1 0 回目：児童福祉Ⅱ ①児童福祉に係る諸機関 ②児童福祉施設 ③変容する児童福祉 1 1 回目：障害者福祉Ⅰ ①障害に対する考え方 ②障害者の概況 ③生涯保障の理念 1 2 回目：障害者福祉Ⅱ ①障害者保健福祉政策 ②自立支援 ③多様性を認め合える社会 1 3 回目：高齢社会と社会福祉Ⅰ ①高齢者とは ②認知症 ③介護サービス（居宅、施設） 1 4 回目：高齢社会と社会福祉Ⅱ ①高齢者住宅 ②高齢者医療 ③地域包括ケアシステム 1 5 回目：地域社会と社会福祉 ①つながりとNPO・ボランティア ②総合福祉への展開		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科 目 名	歯科臨床概論	授業形態	講義
担 当 講 師 名	齋藤 輝海、寺沢 史誉、伊藤 洋平、佐々木 惇、長谷川 令賀		
科 目 内 容	口腔は、呼吸気道の入り口であると同時に、栄養摂取の第一相として重要である。 この口腔の機能である、物を味わう、会話を楽しむ、個性や審美性といった特性を良く理解すると共に、これらの機能、形態を損ねる疾患群を学ばれたい。		
到 達 目 標	歯科全般についての概要を理解する。		
授 業 時 間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版		
参 考 図 書	歯科衛生士臨床歯科医学大要（クインテッセンス出版） 歯科医学総論マニュアル（南山堂）		
授 業 内 容			
1 回目：Ⅰ編 1 章 歯科診療とは			
2 回目：Ⅰ編 2 章 歯科診療所 Ⅰ編 3 章 歯科診療所における業務			
3 回目：Ⅱ編 1 章 ライフステージと歯科診療 Ⅱ編 2 章 1 診査・検査・前処置			
4 回目：Ⅱ編 2 章 2 小児歯科			
5 回目：Ⅱ編 2 章 3 歯科矯正			
6 回目：Ⅱ編 2 章 4 口腔外科①（炎症、外傷）			
7 回目：Ⅱ編 2 章 5 歯科保存			
8 回目：Ⅱ編 2 章 6 歯周治療			
9 回目：Ⅱ編 2 章 7 歯科補綴			
1 0 回目：Ⅱ編 2 章 4 口腔外科②（嚢胞、奇形）			
1 1 回目：Ⅱ編 2 章 3 感染管理、口腔外科処置			
1 2 回目：Ⅱ編 2 章 4 口腔外科③（腫瘍、唾液腺）			
1 3 回目：Ⅱ編 2 章 8 障害者歯科・高齢者歯科、摂食嚥下障害			
1 4 回目：Ⅱ編 2 章 8 全身疾患、周術期の対応、訪問歯科診療			
1 5 回目：解説・まとめ			
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科 目 名	口腔外科学	授業形態	講義
担 当 講 師 名	兼子 隆次、中岡 俊貴、町田 純一郎、篠原 淳		
科 目 内 容	口腔外科学は、口腔領域の疾患、すなわち、諸器官の先天的な異常、変形及び腫瘍（腫れもの）、炎症、外傷、顎関節等に対して正しく診断し処置を施行することを学びます。		
到 達 目 標	口腔外科学の基礎的知識を習得し、臨床における必要事項の基本を理解する。		
授 業 時 間	総時間数 <u>32</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単 位 数	<u>2</u> 単位		
使 用 教 材	顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（最新歯科衛生士教本）		
参 考 図 書	カラーアトラス口腔外科の臨床（医歯薬出版）、口腔外科学（口腔保健協会）		
授 業 内 容			
1回目：Ⅰ編 1章 口腔外科の概要			
2回目： 8章 唾液腺疾患 9章 神経疾患			
3回目：Ⅰ編 2章 先天・発育異常			
4回目： 3章 損傷および機能障害			
5回目：Ⅰ編 10章 診療の実際			
6回目： //			
7回目：Ⅰ編 4章 口腔粘膜の病変			
8回目： 5章 化膿性炎症性疾患			
9回目：Ⅱ編 1章 歯科麻酔と患者管理 2章 局所麻酔			
10回目： 3章 精神鎮静法 4章 全身麻酔			
11回目：Ⅰ編 6章 嚢胞性疾患			
12回目： 7章 腫瘍および類似疾患			
13回目：Ⅲ編 1章 検査・診断時の業務			
14回目： 2章 外科麻酔処置の業務			
15回目：Ⅱ編 5章 救急蘇生法			
16回目：Ⅲ編 3章 歯科衛生士が行うケアと管理			
評価方法基準	筆記試験にて評価（100％）		

■科目別授業計画表

科 目 名	歯科予防処置Ⅱ	授業形態	講義・実習
担 当 教 員 名	藤井 広美		
科 目 内 容	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。さらに相互実習を通して、予防処置の実践力を身につける。		
到 達 目 標	口腔疾患予防のための具体的な方法を学び、実践するための基礎能力を身につける。		
授 業 時 間	総時間数 90 時間 [90分授業を、週 2～4 回で 23 週実施 総授業回数 45]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	歯科予防処置論・歯科保健指導論（最新歯科衛生士教本）		
参 考 図 書	歯科予防処置（新歯科衛生士教本） 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法（医歯薬出版） 歯周疾患歯周治療（最新歯科衛生士教本）		
授 業 内 容			
1 回目：Ⅲ編3章 歯科衛生介入のための歯科予防処置 ④ フッ化物の応用			
2 回目： 1. フッ化物の基礎知識			
3 回目： 2. フッ化物歯面塗布法 基礎実習			
4 回目： //			
5 回目： フッ化物歯面塗布法 綿球法 相互実習			
6 回目： //			
7 回目： フッ化物歯面塗布法 トレー法 相互実習			
8 回目： //			
9 回目： 3. フッ化ジアンミン銀溶液塗布法 基礎実習			
10 回目： //			
11 回目： 4. フッ化物洗口法 基礎実習			
12 回目： //			
13 回目： ⑤ 小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント） 基礎実習（マネキン）			
14 回目： //			
15 回目： 小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）・フッ化ジアンミン銀溶液塗布法 相互実習			
評価方法基準	筆記試験（前期・後期・小テスト）（60％）、実技検定（30％）、授業態度（10％）で評価		

■科目別授業計画表

授 業 内 容

16回目：	小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）・フッ化ジアンミン銀溶液塗布法	相互実習	
17回目：	3章 歯科衛生介入のための歯科予防処置		
18回目：	2. 超音波スケーラー 3. エアスケーラー	基礎実習（マネキン）	
19回目：	超音波スケーラー・エアスケーラー	相互実習	1
20回目：	〃		
21回目：	超音波スケーラー・エアスケーラー	相互実習	2
22回目：	〃		
23回目：	超音波スケーラー・エアスケーラー	相互実習	3
24回目：	〃		
25回目：	3章 歯科衛生介入のための歯科予防処置 ① スケーリング		
26回目：	キュレットの操作	基礎実習（机上）	
27回目：	キュレットの操作	基礎実習（マネキン）	1
28回目：	〃		
29回目：	キュレットの操作	基礎実習（マネキン）	2
30回目：	〃		
31回目：	キュレットの操作	実技検定（マネキン）	
32回目：	〃		
33回目：	キュレットの操作	相互実習	1
34回目：	〃		
35回目：	キュレットの操作	相互実習	2
36回目：	〃		
37回目：	キュレットの操作	相互実習	3
38回目：	〃		
39回目：	キュレットの操作	相互実習	4
40回目：	〃		

■科目別授業計画表

授 業 内 容

4 1 回目： 2章 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 2. 検査

4 2 回目： 歯周組織検査 相互実習

4 3 回目： 3章 歯科衛生介入のための歯科予防処置 6) シャープニング

4 4 回目： シャープニング基礎実習

4 5 回目： まとめ

■科目別授業計画表

科 目 名	小児歯科	授業形態	講義
担 当 講 師 名	榊原 章一、平山 美衣		
科 目 内 容	小児歯科は、日々、成長過程にある子どもを対象とする歯科医学の中の一分野である。この成長過程にある子どもの口腔領域の正常な発育を図り、それを障害する疾患や異常について、予防と治療を行う。		
到 達 目 標	小児歯科の基本的知識を習得するとともに、小児歯科疾患の予防・治療における歯科衛生士の役割を理解する。		
授 業 時 間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数 15]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	小児歯科（最新歯科衛生士教本）		
授 業 内 容			
1 回目：Ⅰ編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 2章 心身の発育			
2 回目： 3章 小児の生理的特徴 4章 顔面頭蓋の発育			
3 回目： 5章 歯の発育とその異常			
4 回目： //			
5 回目： 6章 歯列・咬合の発育と異常			
6 回目： 7章 小児の歯科疾患			
7 回目：Ⅱ編 小児歯科診療 1章 小児期の特徴と歯科的問題点			
8 回目： 2章 小児歯科における診療体系			
9 回目： 3章 小児歯科における患者との対応法 1～4			
10 回目： // 5、6			
11 回目： // 7			
12 回目： // 8、9			
13 回目： // 10～12			
14 回目：Ⅲ編 2章 う蝕予防			
15 回目： 4章 小児の口腔保健管理			
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科 目 名	障害者歯科	授業形態	講義
担 当 講 師 名	岡 義郎、今泉 三枝、図師 良枝		
科 目 内 容	障害を取り巻く環境や障害者の心身の特徴を理解したうえで、障害者歯科診療の介助ならびに歯科保健指導に必要な基本的な事項を学ぶ。		
到 達 目 標	障害者歯科の基本的知識を習得するとともに、治療における歯科衛生士の役割を理解する。		
授 業 時 間	総時間数 16 時間 [90分授業を、週 2 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材	障害者歯科 第2版（最新歯科衛生士教本）		
参 考 図 書	歯科衛生士のための障害者歯科（医歯薬出版） スペシャルニーズデンティストリー（医歯薬出版）		
授 業 内 容			
1回目：障害者歯科概論 1. 障害の概念 2. 障害者歯科の特質 他			
2回目：障害の種類（1） 1. 精神遅滞 2. ダウン症候群 3. 自閉症			
3回目：障害の種類（2） 1. 脳性麻痺 2. 筋ジストロフィー 3. てんかん 4. 重症心身障害			
4回目：行動調整 1. 行動調整法とは 2. 行動変容法 3. 行動変容の技法 他			
5回目：障害の種類の復習 まとめ ・摂食障害への対応			
6回目：摂食嚥下障害とは ・摂食障害への対応(小児期)			
7回目：障害者歯科における歯科衛生士の役割 障害者の歯科診療とその補助 障害者の口腔保健管理（1） 脳性麻痺・重症心身障害児の口腔保健支援			
8回目：障害者の口腔保健管理（2） 発達障害児・者の口腔保健支援			
回目：			
回目：			
回目：			
回目：			
回目：			
回目：			
評価方法基準	筆記試験で評価（100％）		

■科目別授業計画表

科 目 名	歯科保健指導Ⅱ	授業形態	講義・実習
担 当 教 員 名	前田 順子、藤井 広美		
科 目 内 容	小集団指導の伝達方法や媒体づくりを通し、地域歯科保健活動について学ぶ。 対象者（患者）の問題を科学的な思考をもって解決する「歯科衛生過程」の基本 と考え方を学ぶ。		
到 達 目 標	地域歯科保健活動において対象者にとって必要な援助法を学び、口腔衛生指導を 実践するための基礎的能力を身につける。歯科衛生過程の進め方について理解し 継続的指導に関する知識と技術を身につける。		
授 業 時 間	総時間数 46 時間 [90分授業を、週 2 回で 13 週実施 総授業回数 23]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材	歯科予防処置論・歯科保健指導論（最新新歯科衛生士教本） 口腔保健管理 （最新新歯科衛生士教本）		
参 考 図 書	歯科衛生士試験対策ポイントチェック 5		
授 業 内 容			
1 回目： う蝕活動性試験（カリオスタット・ミューカウントテスト・RDテスト）			
2 回目： 歯周疾患潜血検査			
3 回目： ブラッシング指導モデル実習（1、2年合同保健指導準備）			
4 回目： //			
5 回目： ブラッシング指導モデル実習（1、2年合同保健指導）			
6 回目： //			
7 回目： 歯科衛生過程（アセスメント）			
8 回目： //			
9 回目： 歯科衛生過程（歯科衛生診断）			
10 回目： //			
11 回目： 歯科衛生過程（歯科衛生計画立案）			
12 回目： //			
13 回目： 歯科衛生過程（歯科衛生介入・評価）			
評価方法基準	前期：筆記試験（40％）・歯科衛生過程（40％）、後期：媒体作成時の作品、 協力度、発表等（20％）で総合的に評価		

科目別授業計画表

授 業 内 容

14回目： 歯科衛生過程（歯科衛生介入・評価）

15回目： 歯科衛生過程（まとめ）

16回目： //

17回目： 地域歯科保健活動

18回目： //

19回目： 幼稚園・小学校での小集団指導

20回目： //

21回目： //

22回目： //

23回目： //

24回目： //

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

回目：

■科目別授業計画表

科 目 名	食育実習	授業形態	講義・実習
担 当 講 師 名	平井 恵子、中井 敦子		
科 目 内 容	食物の知識と「食べ方」を通して健全な心身を養い、豊かな人間性を育む。口腔保健の専門家として、「食」に関する知識を習得し、保健指導力を身につける。		
到 達 目 標	日本食育インストラクター3級を取得する。		
授 業 時 間	総時間数 90 時間 [90分授業を、週 2 回で23週実施 総授業回数45]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	「何を食べる？誰と食べる？どう食べる？」（社団法人 全国調理師養成施設協会） 「糖尿病」（社会保険出版社）		
使 用 機 器	1回目のみパソコン・プロジェクター		
授 業 内 容	1回目：食育総論 「食」に関するアンケート(前) *実習なし		
	2回目：おいしいのひみつ 料理の基本		
	3回目： //		
	4回目：朝食の必要性 朝食メニュー		
	5回目： //		
	6回目：正しい食生活 バランス食		
	7回目： //		
	8回目：食事のマナー 和の食卓		
	9回目： //		
	10回目：日本の食糧事情 米料理		
	11回目： //		
	12回目：地産地消と食材の旬 地元の食材を使って（1）		
	13回目： //		
	14回目：自分でできるSDGs エコクッキング		
	15回目： //		
評価方法基準	自由献立実習（50％）、平常の授業・実習態度（25％）、テーマについての感想（25％）で総合的に評価		

■科目別授業計画表

授 業 内 容	
16回目：食品表示と食中毒予防	地元の食材を使って（2）
17回目：	〃
18回目：乳児期・幼児期の食生活	親子で作る幼児食
19回目：	〃
20回目：学童期の食生活	自分で作る休日のランチ
21回目：	〃
22回目：思春期の食生活	鉄骨メニュー
23回目：	〃
24回目：妊娠期・授乳期の食生活	暑さに負けず食欲UP
25回目：	〃
26回目：高齢期の食生活	やわらか食の体験
27回目：	〃
28回目：おやつについて考える	甘味をおさえた手作りおやつ
29回目：	〃
30回目：咀しゃくを考える	かみかみメニュー
31回目：	〃
32回目：生活習慣病予防を考える	ダイエットメニュー
33回目：	〃
34回目：自由献立実習準備（1）	薄味でもおいしい減塩メニュー
35回目：	〃
36回目：自由献立実習準備（2）	秋の行楽弁当
37回目：	〃
38回目：自由献立実習準備（3）	パーティーメニュー
39回目：	〃
40回目：行事食	正月料理

■科目別授業計画表

授 業 内 容

4 1 回目： //

4 2 回目：自由献立実習

4 3 回目： //

4 4 回目：授業を振り返って 「食」に関するアンケート(後) 災害への備えと簡単な実習

4 5 回目： //

■科目別授業計画表

科 目 名	放射線	授業形態	講義・実習
担 当 講 師 名	清水 大行、新美 卓也、岸本 大、松本 祐樹		
科 目 内 容	本講義は、診療の円滑、正確、安全を期すべく、放射線の基礎知識、障害と防護の理解の上で、撮影介助技術が習得できることを目標に行われる。		
到 達 目 標	放射線の基礎知識を理解した上で、口内法撮影、口外法撮影の撮影補助ができる。デンタル写真・パノラマ写真の基本的な読影ができる。		
授 業 時 間	総時間数 16 時間 [90分授業を、週 2 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材	歯科放射線（最新歯科衛生士教本）		
参 考 図 書	歯科放射線学（医歯薬出版）、わかりやすい歯科放射線学（学建書院）		
授 業 内 容			
1 回目：放射線の基礎的知識 ・放射線とその性質 ・人体への影響と防護			
2 回目：写真処理(現像と定着)と画像保管の実際 ・放射線治療と口腔管理			
3 回目：口内法エックス線撮影 ①二等分法・撮影装置、フィルムの構造、デジタル撮影、他			
4 回目： " ②口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割			
5 回目：口外法エックス線撮影 ①パノラマエックス線撮影(目的、装置と撮影法)、他			
6 回目： " ②パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割			
7 回目：実習 口内法撮影、口外法撮影			
8 回目： " フィルムの現像、管理、フィルムの読影			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
評価方法基準	筆記試験で評価（100％）		

■科目別授業計画表

科 目 名	看護法大意	授業形態	講義
担 当 講 師 名	平下 祐梨子、竹下 裕子		
科 目 内 容	看護の概念、歯科衛生士に必要な基本的な看護技術や看護実務について学ぶ。		
到 達 目 標	歯科衛生士として必要な看護の知識・技能を身につける。		
授 業 時 間	総時間数 16 時間 [90分授業を、週 1 回で 8 週実施 総授業回数 8]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材	歯科衛生士のための看護法大意		
授 業 内 容			
1 回目：看護の概念			
2 回目：看護技術（バイタルサインの病態と生理・リスク管理）			
3 回目：看護技術（バイタルサイン実習）			
4 回目：地域医療活動における歯科衛生士の役割 訪問歯科の実際			
5 回目：看護技術（患者への支援・安全と安楽・摂食）			
6 回目：救急時の看護 終末期の看護 緩和ケア			
7 回目：看護師による現場の話し バイタルサインテスト			
8 回目：テスト解説、質疑応答			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			

■科目別授業計画表

科 目 名	歯科診療補助Ⅱ(介護実習)	授業形態	講義・実習
担 当 講 師 名	大崎 千秋		
科 目 内 容	歯科衛生士として必要な介護の知識を理論と実践を通して学ぶ。特に高齢者、障がい者・児に対する歯科診療補助に必要とされる介護技術は、健常者以上に技術を要する。患者だけではなく、一緒に働くスタッフにも指導ができる技術を習得する。		
到 達 目 標	歯科衛生士として必要な介護の知識・技能を身につける。		
授 業 時 間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単 位 数	1 単位 (ホワイトニング実習を含めて)		
使 用 教 材	プリントを配布		
参 考 図 書	講義のなかで適宜、紹介する。		
授 業 内 容			
1 回目： 介護とは ー生活支援技術を学ぶー			
2 回目： 生活支援の対象者、コミュニケーション技術			
3 回目： ベットメイキング、ボディメカニクス、腰痛予防			
4 回目： 体位変換			
5 回目： 移動の介助① 車いす、杖			
6 回目： 移動の介助② 手引き歩行（高齢者・視覚障がい者）、チェアー誘導			
7 回目： 食事の介助① 様々な食事形態			
8 回目： 食事の介助② 食事支援技術			
9 回目： 排泄の介助① 排泄のメカニズム			
1 0 回目： 排泄の介助② トイレ、ポータブルトイレ、おむつ			
1 1 回目： 認知症の介護① 認知症の理解			
1 2 回目： 認知症の介護② 認知症への対応			
1 3 回目： 清潔の介助 衣類の着脱・足浴			
1 4 回目： ターミナルケア			
1 5、1 6 回目： 緊急時の対応、技術のまとめ			
評価方法基準	出席状況10点、筆記試験40点、実技テスト40点、小テスト・レポート10点		

■科目別授業計画表

科 目 名	歯科診療補助Ⅱ（ホワイトニング）	授業形態	講義・実習
担 当 講 師 名	杉山 明聡		
科 目 内 容	ホワイトニングの基礎知識の習得 ホワイトニングの体験・実習		
到 達 目 標	ホワイトニングの基礎知識を学んだうえで、ホワイトニングに関する実技習得を目標とする。		
授 業 時 間	総時間数 <u>14</u> 時間 [90分授業を、週1～2回で 4 週実施 総授業回数 7]		
単 位 数	<u>1</u> 単位（介護実習とあわせて）		
使 用 教 材			
授 業 内 容	1 回目： ホワイトニングについての基礎知識(講義) 2 回目： ホワイトニング用マウストレー作製①（スケーリング・PMTC、印象、模型） 3 回目： 〃 ②（模型トリミング、マウストレー作製） 4 回目： ホームホワイトニング（患者への説明、2人1組でのホームホワイトニング体験） 5 回目： オフィスホワイトニング①（前処置・PMTC、歯肉保護剤塗布） 6 回目： 〃 ②（オフィスホワイトニング体験） 7 回目： 〃 ③（後処置・知覚過敏抑制剤塗布、注意事項の説明） 回 目： 回 目： 回 目： 回 目： 回 目： 回 目： 回 目： 回 目：		
評価方法基準	レポートで評価（100％）		

■科目別授業計画表

科 目 名	医療保険	授業形態	講義
担 当 講 師 名	柴田 芳紀、竹内 朗人、服部 彰		
科 目 内 容	歯科保険診療に沿った歯の基礎知識の総合学習とともに、医療保険の基礎知識や用語、保険診療上の歯科衛生士の職務、診療報酬請求事務など、歯科保険診療上の必要事項とオンラインシステム等の理解と習得を目的とする。		
到 達 目 標	医療保険の基礎知識や用語、保険診療上の歯科衛生士の職務、診療報酬請求事務などの概要について理解する。		
授 業 時 間	総時間数 16 時間 [90分授業を、週 1 回で 8 週実施 総授業回数 8]		
単 位 数	1 単位		
使 用 教 材	歯科保険請求マニュアル 令和4年度版 歯の知識と請求の実務		
授 業 内 容			
1 回目：歯の基礎知識 ・ 歯の知識、初期う蝕の治療、痛くなった歯の治療			
2 回目：歯の基礎知識 ・ 感染根管治療、X線撮影、麻酔			
3 回目：歯の基礎知識 ・ 歯周治療、抜歯と手術、歯冠修復と欠損補綴			
4 回目：保険の基礎知識 ・ レセプトと保険診療の仕組み（レセプト、カルテ使用）他			
5 回目：保険の基礎知識 ・ 充填、歯冠修復、歯周治療 他（レセプト、カルテ使用）			
6 回目：保険の基礎知識 ・ 歯科衛生実地指導、レセプトオンラインシステム・オンライン資格確認システム			
7 回目：保険の基礎知識 ・ 保険の種類 用語 （カルテ及びレセプトでの略称）			
8 回目：解説・まとめ			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
回 目：			
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科 目 名	ビジネスマナー	授業形態	演習
担 当 講 師 名	福士 友美		
科 目 内 容	ビジネスマナーは常に個人の資質が問われる大切な項目です。 第一印象が良いとか人柄が良いといわれた人と、そうでない人とは自ずと人間関係の広がりが変わってきます。本講座では正しいビジネスマナーを学び、信頼される社会人へと成長することを目的としています。		
到 達 目 標	身だしなみや敬語等のマナーを理解する。 信頼される社会人としての基礎を身につける。		
授 業 時 間	総時間数 <u>30</u> 時間 90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単 位 数	<u>1</u> 単位		
使 用 教 材	ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級		
参 考 図 書	講師編集プリント		
授 業 内 容	1回目： 資質① 働くとは何か？ 期待役割と創造役割 2回目： " ② 仕事を確実に実行するための判断力・行動力・表現力 3回目： " ③ 積極性・合理性・効率性について 4回目： 職務知識① 一般的な組織の機能と必要性 5回目： " ② 組織の社会的責任 6回目： マナー接遇① 職場での人間関係の必要性 7回目： " ② 就業規則とマナー 8回目： " ③ 場面に応じた各種マナー 9回目： " ④ 言葉使いと敬語表現 10回目： 交際の業務 慶弔のマナー 11回目： 技能① 情報の収集とファイリング 12回目： " ② 文書のマナー 13回目： " ③ 会議のマナー 14回目： まとめ 検定問題演習 15回目： 試験解説		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		